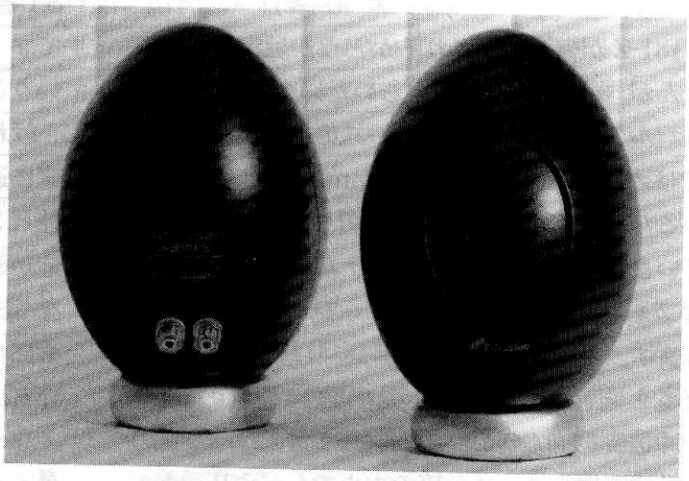
“箱”鳴きは極小
スピーカが消える自然な音



ビフレステック
TGA-1B1 スピーカ・システム

￥105,000

●TGA-1B1の主要規格　形式：密閉型フルレンジ　ユニット：楕円型(口径9cm相当)　再生周波数帯域：70Hz～18,000Hz　感度：80dB/W/m)
インピーダンス：4Ω 外形/重量：140×200×140mm/1kg

高橋和正

卵形の一部が振動板

昨年の本誌11月号に，卵形のフルレンジ・スピーカ・システムの記事が載っていたのをご覧になったかたもあると思う．

ビフレステック株式会社という聞き馴れない企業の製品だが，この会社，オーディオ界の大先達/中島平太郎氏が会長で，筆者の茶谷郁夫氏は，かつて大手メーカーでスピーカ・システムの開発を担当していたと聞けば，このスピーカ・システムがただ者ではないとわかるはずだ．

茶谷さんとは以前から顔なじみだったから，「おもしろそうなスピーカだから聴かせて欲しい」とお願いしたところ，暮にこの卵形スピーカを持参してくれることになった．

卵形エンクロージャのスピーカ・システムはこれまでにもときどき登場しており，なかには3ウェイでMFBまでかけた“オバQ”とあだ名された本格的なものまであったことを記憶されているかたもあろう．

しかしユニークな卵形スピーカたちは製品として定着することなく，姿を消してしまった．

では，今回新しく産み落とされた卵形スピーカは，過去の卵たちとどう違うのだろうか．

いまだからできたフルレンジ

今回レポートするシステムは，昨年末からすでにネット販売が開始されている．型番は黒色のTGA-1B1のほかに，TGA-1W1という白色のモデルもあり，さらに高級バージョンのTGA-2R1が近々発売される予定だそうだ．

大きさはTGA-1がW140×H220×D140mmで，重量は1.3kg，TGA-2は高さのみがH235mmと15mm高く，重量は2.6kgで，どちらも机の上にも乗せて使えそうな小型システムだ．

エンクロージャの材質はTGA-1が樹脂成型品，TGA-2はガラス製で，後者の背が高いのは，入力テーブルの引き出し口を加工上の制約から下側に設定しなければならなかったためである．エンクロージャの壁の厚みはともに四角い箱の常識を破る薄さで，卵形が丈夫な形状であることの実証でもある．

使用されているユニットは1個だけだ．振動板は卵のからの一部を縦に切り取った形のおおよそ9cm口径相当のサイズ，つまり，卵形エンクロージャの一部の壁が切り離されている構造なのだ．

材質は特殊な紙をベースとし，軽量で高剛性と適度なロスを持つが，開発に苦労したノウハウの固まりらしく，詳細は公表できないという．

ユニットとしては導電型で，磁気回路はネオジウム・マグネットを使っているが，TGA-1はショート・ボイスコイル，TGA-2はロング・ボイ